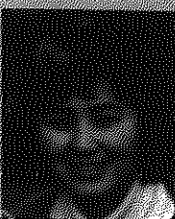


ふるさと園路の整備 高橋イツさん



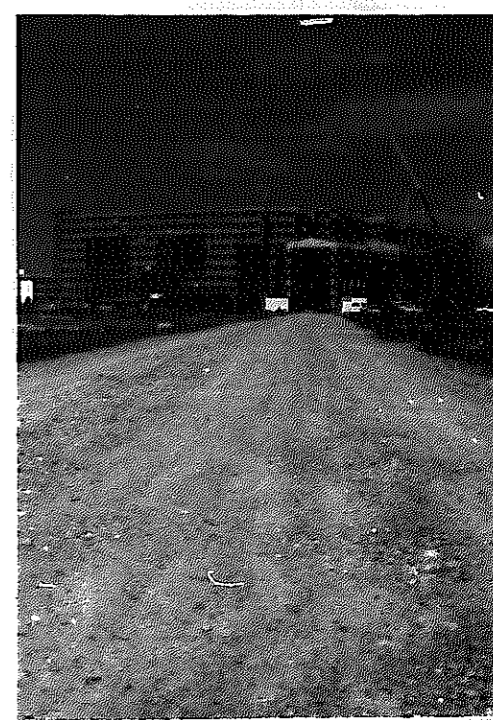
高橋イツさん 38歳、主婦、白根市在住。園路の整備を提議しました。

市のシンボルゾーンとして、待望のカルチャーセンターの完成が間近に迫りました。市民だけでなく多くの人からも利用される、オリジナルな公園であって欲しいと思います。そんな思いで、足形・手形を刻んだブロックを敷く、園路の整備を提議しました。

ふるさと園路の整備

今、白根市には市を代表し、イメージとして浮かぶシンボルがありません。建設中の白根総合公園が市のシンボルにふさわしいものになりうる可能性を持っています。そこで、まず白根総合公園の正面入り口からカルチャーセンターまで、市のシンボルゾーンとしてふさわしい中央広場と園路

の整備を図ります。特に園路は、市民から参加してもらい、手形、足形、メッセージなどを刻んだブロックを敷くならば、原材料費の節減にもつながります。市民の森や市民の山、交通公園の整備などを図ることによって、ぜひとも本市のシンボルにふさわしい施設にしたいものです。



白根ふるさと館の建設

「風の資料」、「白根伝壇」、「白根絞りの展示と実技」など、白根の産業を一堂に集合させた「白根ふるさと館」の設立を提案します。

風資料館を見学したことがありません。雑然とした展示室をつぶさに見ましたが、なかなか内容のある中身と見えました。あのビデオもアイデアと思いましたし、ミニ風が人待ち顔でぶら下げられていました。これらをきちんと整理し、動的な工夫をした展示施設にしたらどうでしょう。高山の屋台台館や村上市の

おしゃがり会館などのように有料にしても恥ずかしくない内容のある風の館ができると思います。

次に絞りの展示、実技室を造ることです。私たちのサークルは昭和六十二年度と平成元年度の二年連続で白根絞りを掘り起こしてきました。白根絞りは二百余年も前に発生したものです。そして、明治の後年から大正の初めにかけては、白根町の米の全生産額よりも絞りの出荷額が上回り、名実ともに「日本一の絞り」として高い評価を受けて



白根絞りに取り組む「ふきのとう」の皆さん

いたことも分かりました。この先人が開拓された歴史ある工芸品。人生八十年時代を迎えた今、白根の生涯教育、社会

教育の面から、市民に有意義な楽しみの場として、建設を望みます。

白根ふるさと館の建設

サークル 白根絞りの会 代表 星野敦子さん



星野敦子さん 59歳、主婦、白根市在住。白根ふるさと館の建設を提議しました。

二年前から「白根絞りの勉強会」をしています。絞りの実習をしながら、雑談をするのが多いのですが、今回のふるさと館のアイデアも、そのときの意見をまとめたものです。白根絞りは、日本の三大絞りの一つだったので、この絞りをはじめ、白根の中の全国に誇れるものを、大いにPRしたらどうでしょう。

ふるさと基金の創設

白根市民が、行政との関わり方が薄かったこと、独自のアイデア、意見を持つていながら発表する機会、場がなかったことなど、長い歴史の中で自分からアピールできる雰囲気がない。そんな中で、今回のような「ふるさと創生」の掛け声のもとで、夢のあるアイデアをとのことで、市民の間では今一つ関心が薄いようです。

白根青年会議所では、ふるさと



木川 勲さん 39歳、会社員、白根市在住。ふるさと基金の創設を提議しました。

ふるさと基金の創設

白根青年会議所 1989理事長 木川 勲さん

具体的な事業を展開する前に、ある程度のステップを踏む必要があると感じました。単発の事業だけでは、まちを活性化させる一助にはならないのでは。決まりきった人だけではなく、いろいろな人がまちづくりのためのいろいろな提案を検討し、その使い方を考えていくなら、まちを自分たちでつくっていくという意識改革ができると思います。

と創生のための会議を過日行い、その場ではさまざまな意見が出ました。その結果、私たちは、市民主導型で、市民が気軽に運営に参加できる「ふるさと基金」を提案いたします。「文化・スポーツ振興基金」のような基金としてその運営方法に特色を持たせたら、市民参加による長期的な事業ができるのではないのでしょうか。

この一年で、一億円の有効な使途を考えるには下地がなく、市制施行三十周年事業や従来事業に分割されるだけでは、市民のコンセンサスが得られないと思います。行政で基金を管理し、決まりきった市民の代表だけでなく、だれでも運営に参加できる方法が取れば、市民総参加の、しかも長期的に「よりよい地域づくり」が実行されるものと思います。

ふるさと創生アイデア審査委員会

審査報告(要旨)

佳作作品の一覧 (敬称略)

応募作品名	氏名(住所)
文化講演会基金の創設	斉藤忠夫(庄瀬下町) 相馬道雄(和泉)
農産物直売所の建設	白根市農協婦人部
芸術・文化・スポーツ育成基金の創設	教育委員会社会教育課
中学・高校生の海外交流	福島隆治(古川宮前町)
信濃川河川敷「河川公園・親水ゾーン」の整備	渡辺十寸雄(みの口)
コミュニティ基金の創設	
白根大風太鼓	伊藤栄一(鯉淵)
世界の凧祭りの開催	坪川藤夫(庄瀬5)
農産物の長期保存方法の改善による経済活性化	桜沢義栄(水道町1)
ファイト基金の創設	二見義隆(四ツ興野)
まちづくり財団の設立	小林正栄(親和町)
風資料館、民俗資料館の充実	山田久美子(中鷲ノ木2)
森林公園の建設	長井サチ(四ツ興野)
フルーツタウンの整備	
旧配水塔を展望台に整備	高橋イツ(水道町1)
市民の山(白根山)の整備	
姉妹都市の締結	

「自ら考え自ら行う地域づくり」事業の実施にあたり、市民から「ふるさと創生」事業としてアイデア募集を行った作品の審査を求められ、七月から数回にわたり審査を重ねてきました。審査結果を集約しましたので、報告します。

このことから、審査委員会では市民から寄せられた作品の一つひとつを真剣に受け止め、白根市の現状を踏まえた中で、「ふるさと創生」事業の主旨に基づいて入選・佳作作品を選定しました。今後、入選作品の中から事業を具体化することになりますが、事業の実施を通じ、創造性と多様性に富んだ豊かな地域社会を築き上げていくことを期待します。